

(参考)これまでの青年経営者等による先進的な事業取組に対する顕彰事業・受賞事業者について

1. 平成24年度受賞者(5者)

| 申請協会 | 事業者名 | 事業の種類 | 事業の概要 |
|------|------------|----------------------|---|
| 北海道 | 丸吉運輸機工株式会社 | 収益性向上・安全対策・環境対策・社会貢献 | 運輸業者が自ら持っている「財産」(=ドライバー・トラック)を最大限に活かしながら、小学校等で子供たちに「楽しみながら運輸業界に興味を持ってもらいたい」との想いを込め、様々な学習プログラムを実施。 ①運輸業界を子供たちの「憧れの業界」にすること。 ②トラックドライバーという仕事を「将来なりたい職業No.1」にすること。 ③子供たちの絵で会社の壁を一杯にし「交通事故撲滅」の社風を創り上げること。を目的に体験型授業を行った。 |
| 栃木県 | 株式会社サンコー | 安全対策 | ウイング車及び平ボディ車の荷台作業中による地面への転落を防止する為の特製ベルトの開発・設置事業を実施。 運輸業の労働災害事故撲滅に向けた取り組み、安全な作業を実施・PRすることで、荷主やお客様に安心して頂き信頼を得るビジネスモデルを構築。 |
| 東京都 | 彦新運輸株式会社 | 収益性向上 | 輸送品質向上、収益性の向上を目的に、ポリスチレン発泡剤によるトラック荷台のフロアシステム(TCDS)を独自開発。軽量・清潔・強度高な製品であるため、荷台床材のライフサイクル長期化によるコスト削減、最大積載量増加による輸送効率・実車率の向上等の効果を得ている。 |
| 東京都 | 川崎陸送株式会社 | 収益性向上・環境対策 | 「トラック受付システム」と「予約システム」を自社開発。 倉庫入出庫業務のさらなる円滑化、およびトラック待機時間の大幅短縮効果を得ている。 |
| 徳島県 | 新居建設運輸株式会社 | 収益性向上・環境対策 | 納品用ダンボールの再利用や荷主業務の積極的な受入等を行い、物流効率化と環境対策を実施。 これまで荷主が複数の倉庫に保管していた商品を、自社(運送会社)の倉庫にメーカーから一括直納させ、荷主が行っていた、荷受→入出庫→保管→検品→ピッキング→梱包→送り状発行→出荷→在庫報告書までを引き受け、物流効率化を図る。 さらに、出荷についても自社トラックで対応することとしたため、空段ボールの回収→再利用ができ環境負荷軽減効果を生んでいる。 |

2. 平成25年度受賞者(2者)

| 申請協会 | 事業者名 | 事業の種類 | 事業の概要 |
|------|---------------------|------------|---|
| 秋田県 | 公益社団法人秋田県トラック協会青年部会 | 社会貢献 | 県内小学校(5年生時)の社会科の授業へ全面的に協力。カリキュラム『物流』の授業時に、部会員が車両とともに小学校を訪問し、自らが授業を行う活動を実施。(平成11年から現在まで159校で実施) これまでの交通安全教室とは異なる視点で、業界の重要性や仕事そのものに重きを置き、専門家でなければ知り得ない内容の授業を行うことで、業界への理解向上に努め「トラック=怖い」のイメージを払拭し、将来業界を目指してもらうことを目的とした活動を行う。 「しごと紹介」的な役割として学校・自治体から評価を得ているとともに、部会員の教育スキル向上にも役立っている。 |
| 愛媛県 | ドウゼン道前運送株式会社 | その他(従業員教育) | 『全社員の成長と幸福の実現』を主眼においた社員教育カリキュラムの確立。 他社との差別化を図るため「運送業=サービス業=人づくり」を主眼に置いた、顧客満足・安全運転・経費削減のためにすべきことを具体的に記載した「社員心得」等を作成し、全社員に対して徹底した教育と定期的な勉強会を実施。 燃費向上、事故減少に効果が得られたのみでなく、意識の向上、顧客満足度向上、クレームゼロ、その他従業員資質にも大きな向上が見られ、一連の教育取組みに対して、業界紙等でも幅広く取り上げられた。 |

3. 平成26年度受賞者(対象者なし)

4. 平成27年度受賞者(2者)

| 申請協会 | 事業者名 | 事業の種類 | 事業の概要 |
|------|----------|-------|---|
| 青森県 | 丸憲運輸有限公司 | 収益性向上 | ウイング車用原木輸送システムの“しくみ”を開発し、特殊車両が必要な原木輸送をウイング車を活用して行うことで往復積載輸送を可能とした。トラックの効率的な運用により、収益性向上と環境負荷の軽減、ドライバーの拘束負担の軽減、林業荷主の販路拡大、新たな荷物の獲得等の効果が得られた。 |
| 東京都 | 株式会社藤倉運輸 | 社会貢献 | AED(自動体外式除細動器)搭載事業用トラックを導入し、救急救命受講ドライバーを乗務させることにより、緊急時に蘇生開始までの時間を短縮させ、生存率を高めることを可能とした。さらにトラックにAED搭載のステッカーを掲示することで通行者の目にも触れやすくした。 |